

2026 年度入試 一般選抜 B

出題の意図【数学】

■大問 1

数学 I・A・II・C の各分野から、基本原理の理解と確かな計算力を問う。循環小数の分数表記や二次関数の最大値、加法定理を用いた三角比、複素数の実数条件など、多角的な数式処理能力を評価する。また、データの結合による平均・分散の算出や、確率計算を通じ、統計的・論理的な思考力をバランスよく測る意図がある。

■大問 2

空間座標におけるベクトルの活用と、図形量の計量能力を問う。平面に垂直な単位ベクトルの導出を通じて、ベクトルの内積と垂直条件の習熟度を評価し、三角形の面積算出へと繋げる処理能力を測定する。さらに、四面体の体積と関連付けた線分の長さの算出を通じ、空間における位置関係の把握と、図形的な情報を数理的に処理する技能を測る意図がある。

■大問 3

関数の性質の理解と、積分を用いた図形量の計量能力を問う。放物線と直線で囲まれた領域において、面積の比率から未知の係数を逆算するプロセスを通じ、定積分計算の習熟度と論理的な構成力を評価する。また、与えられた極値の条件から三次関数の係数を決定する過程を通じ、微分法の基本原理の理解と的確な数式処理技能を測る意図がある。

■大問 4

関数のグラフの性質の理解と、微積分の高度な計算技能を問う。三角関数のグラフと座標軸で囲まれた領域の面積算出や、面積二等分という条件を満たす定数の決定を通じ、定積分の性質の理解と確かな応用力を評価する。また、変数を含む累乗の形をした関数の微分係数算出を通じ、対数微分法などの特殊な計算手法の習熟度を測る意図がある。